

令和元年度 学校経営計画・学校評価				□4月5日提出 □10月18日提出 ■3月30日提出		高知西 高等学校	
高知県の教育基本理念		(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域との連携・協働		学校関係者評価	
目指すべき姿	学校像	「HARD SPIRIT 貫徹精神」の下、幅広い知識と教養を身につけ、逞しく豊かな心身を培い、郷土や我が国さらには国際社会の発展に貢献する志を涵養し、国際人として大局的な視点に立って行動できる人間の育成を目指す学校。	目指すべき姿を実現するための取組等	1 学びの習慣の確立と学力の向上 2 特別活動と部活動の充実 3 グローバル教育の推進 4 英語運用能力の向上と国際交流活動の推進 5 学習環境の整備 6 関係機関との連携・協力 7 SGHなどの教育振興		【学力の向上】 評価 【 B 】 大学進学については一定成果をあげている。また、英語運用能力の向上については、英語科を持つ唯一の学校であり、先生方の指導のおかげもあり、素晴らしい成果を上げているのではないかと。家庭学習の定着は、スマートフォン使用時間の影響もあり、かつてと比べて非常に指導が難しくなっていると思うが、大学進学の夢を実現するには不可欠であるので、学習のあり方や方法を含め地道な指導や工夫をお願いしたい。	
	生徒像	1 確かな学力が定着した生徒 2 逞しく豊かな心身を持った生徒 3 社会に貢献する志をもった生徒 4 大局的な視点を持った生徒		【社会性の育成】 評価 【 B 】 本年度も部活動は加入率が非常に高く、全国大会などへの出場を果たしており、学校に活気がある。グローバル探究をはじめとするSGHでの探究学習により、問題発見能力や解決能力などを考える社会性も育っていると思われる。働き方改革が叫ばれる中で、教員も生徒も時間的な無理がわからないように、部活や学習活動（主に探究学習）に対する工夫の必要がある。		【チーム学校】 評価 【 B 】 校長を中心に教職員が協力し合って教育活動に取り組んでいる。来年度新規事業の採択の可否に関わらず、SGH事業で培った探究的な学習は、大学進学にも成果が出ているので今後もぜひ継続してほしい。また、来年度は高知西高校の最後の入学生、また再来年度は高知国際高校の一期生を迎えるにあたり、国際中学校ともしっかり連携を取って目指す教育の実現に向けて頑張ってもらいたい。	
【重点項目：生徒に対する取組項目】				(評価)A:目標を十分に達成 B:目標を概ね達成 C:やや不十分 D:不十分			
	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力 ○主体的に学習に取り組む態度（学習習慣を含む）	【1年】 ①学習時間 90時間/月（H30: 35時間） ②週明けテストの合格率100%（H30: 76%） ③国・数・英3教科総合の平均点偏差値50.0以上（H30: 50） 各教科の平均点偏差値53.0以上（H30: 50程度） 図書貸出数600冊/年（H30: 494冊） 【2年】 ①学習時間 100時間/月（H30: 42時間） ②国・数・英3教科総合の平均点偏差値50.0以上（H30: 49） 各教科の平均点偏差値53.0以上（H30: 50程度） ③図書貸出数600冊/年（H30: 250冊） 【3年】 ①国公立大学合格者100名以上（H30: 87名）	・宿題の実行と提出を確認し、学習習慣の定着を図る。 ・手帳の効果的な活用方法を学び、タイムマネジメントの能力を育成する。 ・学習時間調査を行い、個別指導を実施する。 ・教科の取組を学年団でも共通認識を持ち、連携を強化する。 ・学年通信を発行し、生徒の取組を評価するとともに、学習意欲の向上を図る。 ・グローバル探究でリサーチペーパーを作成することにより、考える力や判断力、表現力の向上を図る。 ・リサーチペーパーの作成を通して、図書を活用を推進する。 ・推薦1・AOの面接・小論文指導を全教職員で対応する。 ・大学入試新テスト、新学習指導要領を踏まえ、各教科で研究・協議を行い、思考力、判断力、表現力を高める授業に努める。	評価時期:1学期末(8月下旬に職員会議で中間評価を実施) ◎週明けテストの合格率(1回目→2回目) 68.5%→85.9%(1年国語) 88.5%→96.7%(1年英語) ◎7月模試3教科の平均偏差値 50.5(1年生) 49.8(2年生) ●学習時間(期末試験前/中) 89分/161分(1年) 63分/143分(2年) ●図書貸出し数(1学期末) 1年331冊 2年62冊 3年219冊 ※学習習慣の定着には、教科の横の連携を強め、目的意識、学習意欲を高める必要がある。	・教育プラットフォーム Classiを活用し、2年生についてはe-ポートフォリオのなる研究と振り返りに向けた取組につなげる。また、学年全体の学習記録については、学年団中心にさらにClassi活用の定着を図り、定期的なチェックと生徒への声かけを行う。 ・長期休業中の課題や日頃の宿題をできず学校を休む傾向の生徒が増えつつある中、改めて各教科の課題の量を確認し、適切で効果的な課題・宿題を各学年で検討する。	・家庭学習時間(1日当たり) 1年:定期試験前 77分 定期試験中 161分 2年:定期試験前 63分 定期試験中 101分 ・週明けテストの平均合格率 1年 国語 77.6% 英語 82.2% ・国・数・英3教科の平均偏差値1月(記述結果) 1年 3教科平均 50.5 国語 51.6 数学 48.9 英語 50.3 2年 3教科平均 48.7 国語 50.0 数学 48.5 英語 49.8 ・図書貸出数 1年 443冊 2年 292冊 3年 503冊 ・国公立大学合格者数 88名(3月27日現在)	・学習意欲の向上を図るため、進路目標の早期の決定を促すとともに、LH等を活用して進路意識を高める機会を増やす。 ・教育プラットフォームのClassiを活用して学習の自己管理できるように指導を徹底する。 ・国公立大学の一般試験で合格できる実力をつけるためにも、模擬試験の分析結果を教科でしっかりと行い、授業や定期テストにも反映する。
社会性の育成	○コミュニケーション能力(かかわる力) ○キャリアデザイン能力(やりぬく力)	【1年】 ①グローバル探究Ⅰへの積極的・協力的な参加 ②社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒の割合30%以上（H30: 42%） ③政治的教養として、社会の課題を見出し、協働的に追究し解決する態度を養う。 【2年】 ①グローバル探究Ⅱへの能動的・積極的な参加 ②社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒の割合50%以上（H30: 55%） ③政治的教養として社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を養う。 【3年】 ①社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒の割合70%以上（H30: 47%） ②政治的教養として社会の課題を見出し、探究し解決する力を養う。	【1年】 ・本県の地域課題				